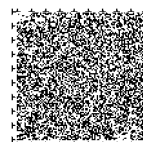
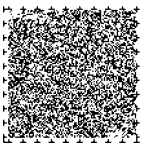


第1章 調査の概要





第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、平成30年度からの次期計画（大田区障害者計画・第5期大田区障害福祉計画・大田区障害児福祉計画・大田区発達障がい児・者支援計画）を策定するにあたり、基礎資料を得ることを目的として実施しました。

2 調査対象・調査件数

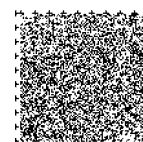
区内在住の障がい者、区内でサービスを提供している事業者を対象に、3種類の調査票を作成して調査を実施しました。

① 18歳以上調査

調査対象	抽出数	抽出方法
身体障害者手帳所持者	2,400	無作為抽出
視覚障がい	400	
聴覚・平衡機能障がい	400	
音声・言語・そしゃく機能障がい	150	
肢体不自由	850	
内部障がい	600	
愛の手帳所持者	700	
精神障害者保健福祉手帳所持者	600	
自立支援医療受給者証（精神通院）所持者	200	
難病医療費助成制度対象者	600	
合 計	4,500	

② 18歳未満調査

調査対象	抽出数	抽出方法
身体障害者手帳所持者	355	無作為抽出
視覚障がい	13	
聴覚・平衡機能障がい	54	
音声・言語・そしゃく機能障がい	2	
肢体不自由	221	
内部障がい	65	
愛の手帳所持者	702	
精神障害者保健福祉手帳所持者	31	
自立支援医療受給者証（精神通院）所持者	43	
難病医療費助成制度対象者	19	
通所受給者証所持者	350	
合 計	1,500	



③ サービス事業者調査

調査対象	抽出数	抽出方法
指定障害福祉サービス事業者、指定障害者支援施設、指定一般相談支援事業者、指定特定相談支援事業者、指定障害児相談支援事業者、指定障害児通所支援事業者	200	無作為抽出

3 調査期間

平成 28 年 11 月 29 日～12 月 22 日

4 調査方法

郵送発送・郵送回収

5 回収結果

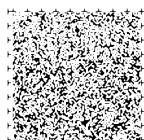
調査種別	発送数 (A)	有効回収数 (B)	回収率 (B÷A×100)
① 18 歳以上調査	4,500	2,308	51.3%
② 18 歳未満調査	1,500	665	44.3%
③ サービス事業者調査	200	123	61.5%
合計	6,200	3,096	49.9%

※ 百分率 (%) の計算は、小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位までを表示しています。

6 調査内容

① 18 歳以上調査

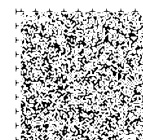
区分	設問番号	設問内容
基本属性	1	調査票の記入者
	2	性別
日常生活	3	年齢
	4	居住場所
	5	手帳等の種類
	6	障がいの種類
	7	要介護認定
	8	住まいの形態
	9	同居者について
日中の過ごし方	10	生活収入
	11	主な介助者・支援者
	12	主な介助者・支援者が不在時の対応
	13	生活に対する不安・困っていること
	14	健康や医療についての不安、困っていること
	15	日中主に過ごしている場所
日中の過ごし方	15-②	仕事をする上での不安や不満
	15-③	リハビリや訓練で不安・不満なこと
	15-④	就労していない理由



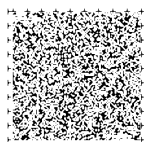
サービスの利用	16	サービスを受けるまでに困ったこと
	17	障害福祉サービス等の利用の有無
	18	どのようなサービスを利用しているか
	19	サービス提供事業者の選択
	20	サービス利用の満足度
	21	不満を感じるサービス・内容
	22	今後のサービス利用意向
	23	サービス提供事業者に対して望むこと
災害時の対応	24	「災害時要援護者登録制度」の認知度
	25	ヘルプカードの認知度
	26	災害時の不安
	27	外出頻度
	28	外出しない理由
権利擁護	29	「成年後見制度」の認知度・利用希望
	30	障害者差別解消法の認知度
	31	差別を受けた経験
	32	差別を受けた場所や場面
	33	差別を受けた内容
	34	虐待防止センターの認知度
相談や情報	35	福祉情報の入手方法
	36	情報入手の困りごと
	37	相談者・相談先
将来の暮らし方	38	将来の暮らし方
	39	地域生活に対する不安
区の施策	40	さぼーとびあの認知度
	41	さぼーとびあに期待すること
	42	就労のための環境整備として必要なこと
	43	社会参加で地域の人に望むこと
	44	今後充実を希望する障がい者施策
自由意見	45	自由意見

② 18歳未満調査

区分	設問番号	設問内容
基本属性	1	調査票の記入者
	2	性別
日常生活	3	年齢
	4	居住場所
	5	手帳等の種類
	6	障がいの種類
日常生活	7	主な介助者・支援者
	8	主な介助者・支援者が不在時の対応
	9	生活に対する不安・困っていること
	10	健康や医療についての不安、困っていること

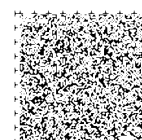


日中の過ごし方	11	日中主に過ごしている場所
	12	通園・通学での困りごと
	13	放課後等の過ごし方
	14	教育で充実してほしいこと
サービスの利用	15	サービスを受けるまでに困ったこと
	16	障害福祉サービス等の利用の有無
	17	どのようなサービスを利用しているか
	18	サービス提供事業者の選択
	19	サービス利用の満足度
	20	不満を感じるサービス・内容
	21	今後のサービス利用意向
	22	サービス提供事業者に対して望むこと
災害時の対応	23	「災害時要援護者登録制度」の認知度
	24	ヘルプカードの認知度
	25	災害時の不安
	26	外出頻度
	27	外出しない理由
権利擁護	28	「成年後見制度」の認知度・利用希望
	29	障害者差別解消法の認知度
	30	差別を受けた経験
	31	差別を受けた場所や場面
	32	差別を受けた内容
	33	虐待防止センターの認知度
相談や情報	34	福祉情報の入手方法
	35	情報入手の困りごと
	36	相談者・相談先
将来の暮らし方	37	将来の生活設計
	38	将来の暮らし方
	39	地域生活に対する不安
区の施策	40	さぽーとぴあの認知度
	41	さぽーとぴあに期待すること
	42	就労のための環境整備として必要なこと
	43	社会参加で地域の人に望むこと
	44	早期訓練・早期支援のために必要なこと
	45	今後充実を希望する障がい者施策
自由意見	46	自由意見



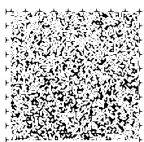
③ サービス事業者調査

区分	設問番号	設問内容
事業所の概要	1	事業所概要
	2	常勤の職種または資格保有者数
	3	常勤の経験年数別の人数
	4	区内の利用者
	5	提供中のサービス
	6	サービスの向上への取組
	7	今後提供予定のサービス
	8	新サービスの実施予定
	9	法改正で取り組む予定のサービス
事業運営の概要	10	収支状況
	11	収支の改善に向けて
	12	利用者の動向
	13	依頼者増への対応状況
	14	依頼に対応できていない理由
	15	サービス評価に関する取組状況
	16	第三者評価を受審しない理由
	17	事業所における各種取組状況
	18	利用者や家族からの苦情の内容
	19	苦情への対応
	20	事業運営上の課題
	21	人材確保に向けた取組
	22	人材育成に向けた取組
23	人材育成に必要な取組	
虐待防止	24	虐待への対応の有無
	25	虐待への対応方法
	26	虐待防止への取組
	27	障害者差別解消法への取組
今後の事業展開	28	区について不満に感じる点
	29	情報公開に向けた取組
	30	災害発生時の協力
	31	施設運営上の課題
自由意見	32	自由意見



7 調査結果を見る上での注意事項

- ・回答者の年齢は、平成 28 年 4 月 1 日時点のものとしします。
- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- ・百分率（%）の計算は、小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位まで表示した。したがって、単数回答（1 つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて 100%にならない場合があります。
- ・複数回答（2 つ以上選んでよい問）においては、%の合計が 100%を超える場合があります。
- ・表やグラフ中において、あるいは本文でも繰り返し使用する場合など、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。また、表内で網掛けとなっている部分については、全体よりも 5 ポイント以上高い場合を示します。
- ・回答者数が 100 を下回る場合、比率が上下しやすいため、本文中では触れませんが、特にその項目についての傾向の把握が欠かせない場合はこれに言及することがあります。
- ・本報告書において「障害福祉サービス等」には、地域相談支援及び児童福祉法に基づくサービスを含むものとしします。
- ・今回実施した 3 つの調査をそれぞれ指す場合には、①18 歳以上調査は 18 歳以上、②18 歳未満調査は 18 歳未満、③サービス事業者調査は事業者調査として表現する場合があります。



◇ 障がいの特性を踏まえた分析について

各設問における分析にあたっては、障がいの特性を踏まえるため、以下の分類により行いました。略称については、分類自体が回答者の回答に基づくものでもあり、困りごとなど共通した傾向が見られやすいと思われる枠組みとしてつけたものであるため、一般的な、身体障がい、知的障がい、精神障がい等と完全に重なるものではありません。

■ 特性を踏まえた分析の分類方法

略称	分類方法
[身体]	身体障害者手帳を持っていると回答された方
[知的]	愛の手帳を持っていると回答された方
[精神]	精神障害者保健福祉手帳または自立支援医療受給者証を持っていると回答された方
[難病]	特定医療費受給者証を持っていると回答された方
[発達]	発達障がいを手帳等の取得のきっかけと回答された方
[高次]	高次脳機能障がいを手帳等の取得のきっかけと回答された方

また、特に、身体障がいのある方について、さらに詳しく分析を行う場合は、同様に以下の分類のもと、次の略称を用います。

■ 身体障がいのある方の分析の分類方法

略称	分類方法
[視覚]	視覚障がいを手帳等の取得のきっかけと回答された方
[聴覚]	聴覚・平衡機能障がいを手帳等の取得のきっかけと回答された方
[音声]	音声・言語・そしゃく機能障がいを手帳等の取得のきっかけと回答された方
[体幹]	体幹や上肢下肢などの運動機能障がいを手帳等の取得のきっかけと回答された方
[内部]	内臓や免疫機能などの内部障がいを手帳等の取得のきっかけと回答された方

◇ 経年変化について

いくつかの設問では、経年変化として、平成 25 年度に実施した調査との比較を行っています。この比較については、調査や分析の枠組みの違いや、対象の抽出方法が異なることなどから、参考値としての掲載とします。また、今回調査についてを[今回]、平成 25 年度調査についてを[前回]と表示します。

■ 平成 25 年度調査の種類と対象者

種類	対象者
身体・知的障がい児調査	区内在住の身体障害者手帳・愛の手帳を所持する 18 歳未満の区民
身体・知的障がい者調査	区内在住の身体障害者手帳・愛の手帳を所持する 18 歳以上の区民
難病児・難病患者調査	区内在住の難病患者の区民
精神障がい児・者調査	区内在住の精神障害者保健福祉手帳を所持する区民
サービス事業者調査	大田区でサービスを提供している事業者

